

論文

学生相談室における学生支援体制の構築に関する一考察
—ウエルネスチェックシートUPIの導入—

荻原 はるみ

I. はじめに

「大学、短期大学及び高等専門学校における障害のある学生の修学支援に関する実態調査」(日本学生支援機構、2018)によると、大学、短期大学等に在籍する障害学生数は33812人で、前年度(31204人)より2608人増えているという結果が報告されている。学校種別に見ると、大学に在籍している障害学生数は30190人で、前年度(28430人)より1760人の増、短期大学は1920人で、前年度(1434人)より486人の増であった。また、発達障害を中心に、本人も周りも困っているながら診断名を持たない学生も数多くいるという(高橋・内野,2006)。

このように、大学・短期大学・高等専門学校において障害のある学生の存在が知られるようになってから、学生の状態に応じ、適切教育上の配慮や支援が各学校で様々に行われるようになった(勝浦,2016)。2016年4月に施行された障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法)において、差別を解消するための措置として、障害のある人たちに対する差別的取り扱いの禁止と合理的配慮の不提供の禁止の二つが具現化された。前者の差別的取り扱いの禁止については、国・地方公共団体等、民間事業者を問わず法的義務であり、後者の合理的配慮の提供は、国・地方公共団体等においては法的義務である一方、民間事業者においては努力義務であるとされている。私立の学校は、合理的配慮は努力義務にとどまっているが、実質的に求められているものは両者は同じである。

また、独立行政法人日本学生支援機構学生生活部障害学生支援課からの発達障害学生への修学支援に関するアンケート調査の内容を精査してみると、教材の拡大化、使用教室配慮などの授業支援、学生生活支援・就職支援などの授業以外の支援など、具体的な支援法を示すことに迫られていることを痛感している。

そのような中、本学における学生支援については、アドバイザー制度の下、日常生活における相談についてはアドバイザーとのかかわりの中で問題を解決してきている。このシ

システムの中で、本学においては全教員が直接的・間接的に学生相談にかかわっていると語る。他の視点からのアドバイスを求めたい場合や、個別の相談を希望する場合は、学生相談室を利用するというシステムが組まれている。この支援体制の流れの中で、従来までは学生支援においては特に大きな問題はなくきていた。が、昨今では、特別な支援を必要とする学生や対応に苦慮する学生が年々増加してきており、支援体制を強化する必要性が浮かび上がってきた。

まずは、「文部科学省の所管する事業分野における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応指針」（文部科学省、2015）を踏まえ、障害学生に対するガイドライや規程を作成されることとなったことを受けて、本学においても、2019年に障害学生支援に関する規程が作成された。

さらに、学生相談室は自発的に来談した学生のみを支援してだけでなく、学生が精神的健康を大きく損なう前に行う介入、すなわち、予防的介入をしていくことも必要である。そこで、学生の精神健康状態の実態を把握し、特別な支援を必要とする学生を早期にスクリーニングし、早期からの支援をしていくための一手立てとして、ウエルネスチェックシートの導入を試みることにした。

これまで全国の学生相談室において主として用いられてきた精神的健康度スクリーニングテストには、UPI（University Personality Inventory）がある。UPIは、全国大学保健管理協会（1966）の学生相談カウンセラーと精神科医が中心に開発した60項目からなる大学生を対象とした精神身体的な問題の把握と、早期介入を目的とするスクリーニングテストである。学生相談カウンセラーの見地から、大学生が抱くであろう悩みを網羅しつつ、回答者にとって抵抗のない表現を用いた項目内容からなっている（酒井・野口,2015）。著作権フリーのため無料で使用でき、比較的自由に用いることができるテストであり、UPIに関する研究や実践報告は数多い。多くの大学が入学直後の新生にUPIを実施し、大学不適應など問題を有する学生理解の有効性を明らかにしてきた。文献整理を行った鋤柄ら（2016）によると、たとえば、岡ら（2006）は年毎のUPI得点および高得点者と入学1年以内の退学率を検討し、得点と退学者率の間の関連傾向を示した。木ノ瀬ら（2007）は、4年間継続して実施したUPIの結果から、1,2年時の大学生生活前半で離学する学生が全体の82%を占め、その多くが就学継続者より優位に高得点傾向にあるとし、早期からの退学者対策の展開を主張している。また小塩ら（2007）も、退学の有無とUPI得点は関連するとし、退学を考える学生の身体症状を呈するほどのストレスがUPI得点に影響を与

えているとしている。その他、高岸ら(2013)は、UPIと授業の出席状況との関連を報告している。所属大学の学生を対象とし、UPIを実施その結果の特徴を報告した研究には、木下ら(1997)や中井ら(2007)、井上ら(2011)、青木ら(2014)の報告がある。これらの報告から、UPIは問題の早期発見と早期からの支援の開始に役立つだけでなく、高得点者の心理・社会的特徴を把握し、予防的な活用を可能にされている。また、実施のみで終わらせず、多くの大学が何らかの方法で個別面接も併せて実施しており、その実践報告や検証も少なくないと報告されている(鋤柄ら、2016)。

そこで、本学においても学生の精神身体的な問題の把握と、早期介入を試みるために2020年度よりUPIを導入することとした。さらに本学にはアドバイザー制度が敷かれているため、ウエルネスチェックシートの結果をアドバイザーによる個別面接にも活用してもらうこととした。学生相談室は二次的対応機関として、アドバイザーによる指導の下、呼び出し対象となった学生に対して、個別に丁寧に関わって支援していくとともに、個別相談を希望してきた学生への対応を行っていく。

Ⅱ. ウエルネスチェックシート作成までの取り組み

1. アンケートを用いる目的

学生一人一人の理解を深め、支援を必要としている学生への早期からの関わりができるようにする。さらに、退学防止、学業不振学生・障害学生への支援にも役立つ。

2. 近隣大学の取り組み調査

UPIが全国的に多くの大学で用いられていることは言うまでもないが、愛知県の近隣の大学での実態を調査した。方法は、愛知県臨床心理士会や県内で開催された研修会等において、大学の学生相談室を担当している臨床心理士からの聞き取りによるものである。

- ・A大学:学生数1万5千人。学生相談室には臨床心理士のほかに、校医(精神科)もいる。UPIを活用している理由としては、「メジャーなテストであり、著作権(版權)等の問題も発生しないため、自由に用いることができる」(臨床心理士談)。パンチャールバイトを雇って処理している。その他、発達障害スクリーニング用紙、うつ尺度(SDS)も用いている。
- ・B大学:学生支援としてのアンケートやテストは用いていない。障害学生の支援・ハラスメントにも力を入れている。学生相談室では独自にUPIを用いている。方法としては、マークシートに記入後、処理は専門の職員がパソコン入力して行っている。

- ・C大学・D大学：発達障害スクリーニング用紙としてUPIを用いている。
 - ・E大学：メンタルヘルスチェックとしてUPIを用いている。
 - ・H大学：学生相談室でUPIを用いている。
 - ・I大学：短縮版UPIを使用している。短縮版とは、60項目のうち、20項目を減らして40項目とし、発達障害スクリーニングのための4項目を加えた44項目版である。精神科医と臨床心理士とで作成された。
 - ・J大学：1学年600人から700人規模の大学であり、UPIを実施している。
 - ・K大学：保育者養成大学であり、アンケートやスクリーニングテストは用いていない。
 - ・L大学：保育者養成大学であり、アンケートやスクリーニングテストは用いていない。
- その他、日本学生相談学会理事の先生方の大学、筑波大学での取組等も参考にした。

3. 本学で用いる質問紙

上記の研究結果から、本学においてもUPIを用いることは有効的であることが推測された。しかし、60項目は項目数が多いということと、質問紙を用いる目的は、スクリーニングではなく、アドバイザーとの面接に役立ててもらおうということであるため、短縮版を用いることとした。短縮版としては、T大学の酒井渉氏開発の16項目版と、T学院大学監修（学生相談室の臨床心理士と精神科医による監修）の44項目版の2種類を入手し、各々の著者に、本学で用いることの許可を得ることができた。学生相談室会議において、どちらの短縮版を用いるかを検討した結果、後者を採用することとした。その理由は、T学院大学の44項目版には、発達障害に関する項目も4項目含まれており、発達障害傾向のある学生のスクリーニングも兼ねているという理由からである。

4. 予備調査

学生相談担当教員（2名）各々のゼミ生（計17名）、及び学生相談室を利用している数名の学生にUPI短縮版を実施した。学生相談室利用学生には、統合版困り感質問紙も実施した。その結果、両質問紙は本学の学生の精神面を把握する質問紙として適しているだろうという見通しを持つことができた。なお、具体的なUPI得点については、個人情報保護の見解からここでは開示しないこととする。

Ⅲ. 本学における学生支援

以下のような手順を計画した。

- ① 入学時の健康調査票（資料1）にて、心身の健康・何らかの障害の有無・特別な配慮

の必要性の有無を把握する→本人の了解を得たうえで希望者には保健室より学生相談室を紹介してもらう。

- ② 入学後の学生相談オリエンテーション時に学生相談についてのガイダンスを行い、申し込み方法として、相談ポストへの学生相談申込書（資料2）があることを紹介する。学生相談申し込みポストは学生相談担当教員が毎日確認し、申込書の投函があった場合は早期の面接対応を開始する。

資料 1

資料 2

調査内容は、健康測定、実習等の健康指導・配慮に活用する資料です。それ以外に情報が開示されることはありません。
健康調査票 名古屋柳城女子大学 名古屋柳城短期大学

1. 健康状態について
 本校内で記入すること【質問に該当するものに、マル〇をし、詳細を記入して下さい】

記入日: 西暦	年	月	日	学年	西暦	年	月	日生	性別
学籍番号	氏名			西暦	年	月	日生	男	女

質問	該当するものに〇をつけて下さい	「なし」以外に〇をした人は、詳細を記入すること		
		年齢	病名/症状	通院/治療 (薬の名前記入)
①既往歴の有無? ・現在は発症しているが、以前、なった大きな病気や怪我等	・なし ・あり			
②現病歴の有無? ・治療中・経過観察中の病気 ・通院していないが処方薬を使用している病気 ※女子は生理についても記載	・なし ・市販薬を使用 ・あり			
③何らかの障害の有無 ・何らかの障害により特別な配慮を要しますか?	・なし ・あり			

※検査料：学外会費ゼミ中、アレルギーのある人には、可能な限り対応を検討・実施しますので、正確に記載して下さい。

質問	回答	「なし」以外に〇した人は、詳細を記入すること	
		原因	アレルギーの種の対応
④アレルギーの有無? ・なし ・あり ・食べ物 ・薬 ・その他 (植物・花粉・動物)			
⑤現在、不安や悩み、何か保健室に伝えたいことがありますか?	・なし ・あり		

学生相談申込書		年	月	日
学籍番号	氏名			
相談内容 (下記の中から該当する項目の番号に〇を付けてください)				
1. 心の問題について				
2. 身体の問題について				
3. 授業や学業について				
4. 家族の問題について				
5. 友人関係・友達について				
6. 生活について				
7. その他				
詳細については、相談当日お聞きします。				
相談の希望日時、相談担当者希望等があれば、書いて下さい。				
相談日時について、あなたへの連絡をさせていただくために、携帯電話番号をお教えいただければ幸いです。差支えなければご記入ください。				

下記に、学生相談の教員の連絡先が書かれていますので、キリトリ線より切り取って、持ってってください。

✂キリトリ線

こちらから、日時について連絡する場合は下記の電話からかけさせていただきます。
 052-848-8192 (〇〇研究室)
 052-848-8154 (▲▲研究室)
 052-848-8164 (□□研究室)
 お返事までに2~4日かかりますが、必ず連絡させていただきますので、お待ちください。
 勇気をもって投函してください、ありがとうございました。

- ③ 学生相談室オリエンテーションの最後に、ウエルネスチェックシート / 短縮版 UPI (資料3) による心身の健康度調査を実施する。今後、学生支援をシステム化していくためにも、チェックシートの回答はネットでの回答方法をとることとした。
- ④ 学生相談室よりウエルネスチェックシートの結果シート (資料4) をアドバイザーごとに配布する。アドバイザーはウエルネスチェックシート手引き (資料5) に従い、結果を面接に利用する。引き続き1年間は学生指導に活用してもらうために、ウエルネスチェックシートの管理は個人情報保護に十分留意に各アドバイザーが行い、1年終了後には責任をもって廃棄処分してもらう。

学生相談室における学生支援体制の構築に関する一考察

資料 3

名古屋柳城女子大学	学年	学生番号	フリガナ
名古屋柳城短期大学			氏名

取扱注意

ウェルネス チェックシート

学生相談室

※以下の質問は最近1年くらいの間に時々感じていたり経験したことのある項目を記入してください。
※この質問はあなたの心と体の健康状態の理解と増進に役立てるもので、目的以外に使用することはありません。

相談を希望した場合や回答結果に応じて、後日ご連絡します。

No.	質問	はい	いいえ	No.	質問	はい	いいえ
1	食欲がない			23	根気が続かない		
2	胃や腸の調子が良くない			24	気が小さい		
3	動悸や脈拍が気になる			25	やる気が出てこない		
4	身体が軽い			26	考えがまとまらない		
5	親の期待が大きすぎる			27	何となく不安である		
6	将来のことを心配し過ぎる			28	繰り返し嫌めないと苦しい		
7	気を失ったりひきつけたりする			29	人に会いたくない		
8	緊張すると震えたり冷や汗が出る			30	死にたくなる		
9	首や肩がこる			31	他人が信じられない		
9	めまいや立ちくらみがある			32	悲観的になる		
11	不眠がちなである			33	自分が自分でない感じがする		
12	排尿や性器の事が気になる			34	他人に悪くとられやすい		
13	何事にもためらいがちである			35	自分を傷つけたことがある		
14	人付き合いが苦手である			36	他人に嘘を言われる		
15	周囲の人が気になって困る			37	何事もいきいきと感じられない		
16	人に気を使い過ぎる			38	他人の視線が気になる		
17	おこりっぽい			39	気分が波がある		
18	イライラしやすい			40	気持が高つたられやすい		
19	不平不満が多い			41	人の話が理解できない		
20	つまらぬ考えにとらわれる			42	会話が苦手である		
21	ものごとに自信がもてない			43	作文を書けない		
22	一人でいると落ち着かない			44	整理・整頓が苦手である		

大学生生活を送るうえで何が相談したいことはありますか。
(例) 授業について、友人関係について、進路について、生活について、体調についてなど

差し支えなければあなたの携帯電話番号をお知らせください。こちらから相談日時について連絡させていただきます。(あなたの携帯電話番号)

資料 4

ウェルネスチェックの結果シート

学生相談室

学籍番号	202021T01		アドバイザー名	〇〇先生
			氏名	柳城 花子
質問項目	回答	質問項目	回答	
1.食欲がない	いいえ	23.根気が続かない	はい	
2.胃や腸の調子が良くない	はい	24.気が小さい	はい	
3.動悸や脈拍が気になる	いいえ	25.やる気が出てこない	はい	
4.身体が軽い	はい	26.考えがまとまらない	はい	
5.親の期待が大きすぎる	いいえ	27.何となく不安である	いいえ	
6.将来のことを心配し過ぎる	いいえ	28.繰り返し嫌めないと苦しい	いいえ	
7.気を失ったりひきつけたりする	いいえ	29.人に会いたくない	いいえ	
8.緊張すると震えたり冷や汗が出る	はい	30.死にたくなる	いいえ	
9.首や肩がこる	はい	31.他人が信じられない	いいえ	
10.めまいや立ちくらみがある	はい	32.悲観的になる	いいえ	
11.不眠がちなである	いいえ	33.自分が自分でない感じがする	いいえ	
12.排尿や性器の事が気になる	いいえ	34.他人に悪くとられやすい	いいえ	
13.何事にもためらいがちである	はい	35.自分を傷つけたことがある	いいえ	
14.人付き合いが苦手である	はい	36.他人に嘘を言われる	いいえ	
15.周囲の人が気になって困る	いいえ	37.何事もいきいきと感じられない	いいえ	
16.人に気を使い過ぎる	いいえ	38.他人の視線が気になる	いいえ	
17.おこりっぽい	いいえ	39.気分が波がある	はい	
18.イライラしやすい	いいえ	40.気持が高つたられやすい	いいえ	
19.不平不満が多い	いいえ	41.人の話が理解できない	いいえ	
20.つまらぬ考えにとらわれる	いいえ	42.会話が苦手である	はい	
21.ものごとに自信がもてない	いいえ	43.作文を書けない	はい	
22.一人でいると落ち着かない	いいえ	44.整理・整頓が苦手である	はい	
			「はい」の合計数	16

・29～38に3つ以上「はい」	非該当
・41～44に2つ以上「はい」	該当
・「30.死にたくなる」に「はい」	非該当

資料 5

<ウェルネスチェックシートについての手引き>

学生相談室

◆ウェルネスチェックシート・UPI (University Personality Inventory) とは？
全国大学生保健管理協会によって作成された、大学入学時に行う、**精神身体的健康に関する質問紙**である。

◆本学では、短縮版UPIを用いることとする。
学生は、**44項目**の質問のうち、最近1年間くらいの間に時々感じていたり経験したことがある「はい」に、なければ「いいえ」に○をつける。

◆実施：学生相談室のオリエンテーション時に、学生相談の教員が実施する。

◆活用：ポータルシステムのWeb学生カルテに、各アドバイザー学生の結果が掲載されるので、保育基礎演習に組み込まれているアドバイザー面接等で活用する。

◆採点：○を1問1点として計算し、合計点が算出される。

- 29～38に3つ以上チェックした学生、
- 41～44に2つ以上チェックした学生、
- 30「死にたくなる」にチェックした学生、

に○をつけた学生に対しては、丁寧な面談を実施し、特別な支援が必要と思われた場合は、本人の了解を得た上で、学生相談室を紹介する。
学生相談室においても、個別面接を希望した学生に対しては、面接を実施していく。

基本的には**日常的な支援はアドバイザーが行っていくもの**とするが、特別な支援を必要とする学生については、学生相談室等と連携をとって継続的な支援を行っていく。

◆管理：学生相談室が管理をし、必要に応じて、原則本人の許可を得たうえで開示するものとする。

ウェルネスチェックシートにより抽出された学生の情報については、学生指導に活かすことを目的とし、アドバイザー、学生支援課、学生相談室、及び関連する機関が共有していく。

◆経費削減のため、実施及び集計については、教職員で行うこととする。

- ⑤ 身近な支援や相談はアドバイザーが担っており、4月中（教職実践演習の一環で学外ゼミ前までに実施することになっている）に各アドバイザーはアドバイザー学生への個別面談を実施する。その際、学生相談室作成の面接シート（資料6-①、6-②）の使用も可能である。

資料 6 - ①

面接シート(1年生用)			
学籍番号	氏名		
出身高校			
本学入試	公募制推薦A(専願)	公募制推薦B(併願)	指定校推薦
	AO入学試験	同意生推薦	社会人入試
	一般A入試	一般B入試	一般C入試
取得資格 (すべて記入)			
趣味・特技			
高校までの部活・サークル			
高校までに頑張ってきたこと			
得意な科目			
苦手な科目			
アルバイト	内容:		
	週()回 時間() ~ ()		
仲良しさん			
不安なこと 心配なこと (何でもどうぞ)	学業・友人関係・大学生活・学外ゼミ・家族のこと・健康・精神面・金銭面・就職・その他		

資料 6 - ②

面接シート(2年生用)			
学籍番号	氏名		
出身高校			
就職希望 (○を付けてください)	公務員(幼稚園)	公務員(保育士)	公務員(一般)
	私立幼稚園 施設	私立保育園 一般企業	認定こども園 その他()
進学希望	専攻科保育専攻 他大学()		
取得資格 (すべて記入)			
趣味・特技			
得意な科目			
苦手な科目			
学内での活動			
アルバイト	内容:		
	週()回 時間() ~ ()		
仲良しさん			
不安なこと 心配なこと (何でもどうぞ)	学業(実習を含む)・友人関係・大学生活・学外ゼミ・家族のこと・健康・精神面・金銭面・就職・その他		

- ⑥ ウェルネスチェックシートでスクリーニングされた学生や個別の支援が必要と思われる学生については、学生相談室で個別の面接を実施していく。指導上の必要に応じて、本人の了解を得て、アドバイザーや関係部署と連絡を取り、連携をとってサポートしていく。
- ⑦ アドバイザーから学生相談室に紹介された困難を抱えていそうな学生に対しては、学生相談室での個別相談と短縮版困り感質問紙（資料7）の実施および継続支援を行っていく。短縮版困り感質問紙は、信州大学の高橋知音氏らを中心に開発された。2005年の発達障害者支援法の施行を受け、大学においても発達障害学生に対して適切な配慮や支援を行なうことが求められるようになったことから、発達障害学生の支援ニーズを把握するために、2種類の質問紙（①自閉症スペクトラム障害に関連した

学生相談室における学生支援体制の構築に関する一考察

困り感を測定する ASD 困り感質問紙、②注意欠如多動性障害に関連した困り感を測定する ADHD 困り感質問紙)が開発された。さらに、短い時間でより広範な支援ニーズをとらえるために開発された質問紙が短縮統合版である。

資料 7

大学生生活に関する困りごと調査

名古屋柳城女子大学 名古屋柳城短期大学 学生相談室

学籍番号	名古屋柳城女子大学 名古屋柳城短期大学		
学年	性別	男	女
	氏名		

これは、あなたが日頃どのようなことで困っているかについての調査です。それぞれの項目について、困っている程度に応じて 0～3 の 4 段階で回答してください。記入された資料は学生支援の向上に役立てるとともに、相談希望者にはこちらから連絡します。

	困っていない	少し困っている	とても困っている
1 気が散りやすくて困る	①	②	③
2 よく物をなくして困る	①	②	③
3 忘れ物が多くて困る	①	②	③
4 衝動的に行動してしまい困る	①	②	③
5 生活が不規則で困る	①	②	③
6 片付けられなくて困る	①	②	③
7 課題や仕事の詳細の切り間にあわなくて困る	①	②	③
8 学校や仕事の場面で単純なミスが多くて困る	①	②	③
9 悪気はないのに人を傷つけてしまい困る	①	②	③
10 やらなければならないことが複数あるときに、うまくこなせない	①	②	③
11 気分の波が激しくて、困っている	①	②	③
12 生活のリズムが乱されるのは苦痛だ	①	②	③
13 他の人たちは自分ほ程度に忙いことばかりしていると思われていると思う	①	②	③
14 進学やクラス替えのときに新しい友人を作るのは苦手だ	①	②	③
15 グループ活動では原ごちが悪くて困る	①	②	③
16 友達が少ないことが気になる	①	②	③
17 過去の経験が現在起こっていることのようによみがえり、気持ち不安定になることがある	①	②	③
18 他の人がどんなことを考えているのかを想像することが苦手だ	①	②	③
19 「自分は普通の人と違う」と感じて困っている	①	②	③
20 孤立していると感じている	①	②	③
21 とても確いな特定の音や匂いや肌ざわりなどがあって、困ることがある	①	②	③
22 他の人たちのように、うまく会話ができない	①	②	③
23 規範のルールがわからなくて困ることがある	①	②	③

これらの困っていることについて相談を希望しますか？あてはまるものを選んでください。
 1. 相談を希望する 2. 相談すべきかどうか迷っている 3. 相談を希望しない

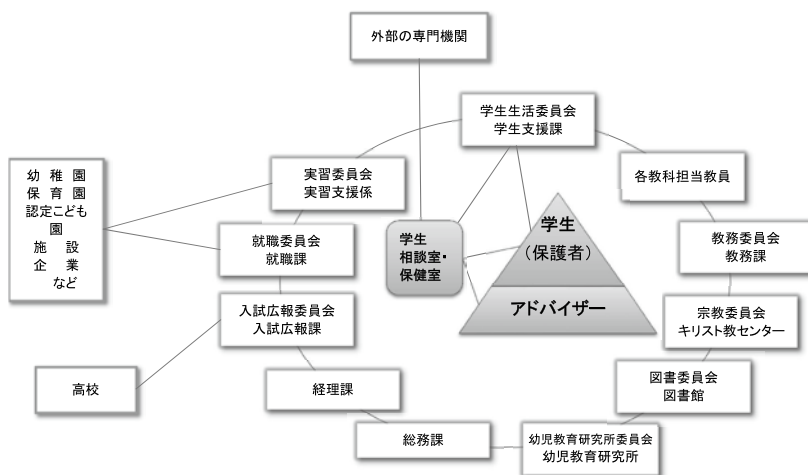
相談を希望する、もしくは迷っている場合は連絡先を記入してください。

メール	
携帯番号	

- ⑧ 特に、学外ゼミ・実習・就職活動等において特別な配慮（アレルギーを含む身体面・精神面等の配慮）を必要とする学生については、アドバイザー・学生支援課・教務課・就職課・各委員会・授業担当教員等と学生相談室とが連携をとって支援していく。
- ⑨ 通信制の高校からの入学生については、アドバイザーを中心に特に注意して見守り、必要があれば学生支援課の支援、学生相談室での面接および支援を開始する。
- ⑩ 授業欠席過多の学生に対しては、授業担当教員・教務課・アドバイザーからの指導が行われている。
- ⑪ 学修面での支援が必要な学生については、各教科の担当者が指導をしていくのが基本であるが、特別な配慮を必要とする学生については、アドバイザー・教務課が中心となり、学生支援課・学生相談室等とも連携をとって支援していく。
- ⑫ 学生支援の主たる窓口は学生支援課、個別相談は学生相談室であるが、アドバイザー、

各委員会担当教員、各教科担当教員、保健室、教務課、実習委員会及び実習支援係、就職課、その他各課の全学（全教職員）が連携をとって学生支援（資料 8）を行なっていく。

資料 8 学生サポート



⑪その他、学外ゼミ、1・2年生合同の討論会、学生会、サークル活動、ボランティア活動など学年を超えた学生同士の交流の場を通じて情報交換している。

Ⅳ. ウェルネスチェックシートの実施手順

本学でウェルネスチェックシートを用いる目的は、学生の心身の健康の把握を早期にして、早期からの支援を開始するためであるが、もう一つの目的として、アドバイザーがアドバイザー学生一人一人の理解をより深めるための手段の一つとしてもらうことにもある。そこで、ウェルネスチェックシートの結果は、面接の際、参考にしてもらうようにする。手順については、採点の手引きを作成し配布した。

参考のために、短縮版UPI44項目が測定している各領域を60項目の領域と照らし合わせて表1に示した。

44項目のうち、29～38に3つ以上チェックした学生、41～44に2つ以上チェックした学生、30「死にたくなる」にチェックした学生に対しては、丁寧な面接を実施し、特別な支援は必要と思われる場合は、本人の了解を得たうえで、学生相談室へつなげてもらう。

表 1 短縮版UPI 項目一覧と各領域の対照表

No.	質問	60項目	領域	No.	質問	60項目	領域
1	食欲がない	1	精神身体的訴え (心気的症状)	23	根気が続かない	28	抑うつ傾向
2	胃や腸の調子が良くない	2	精神身体的訴え (心気的症状)	24	気が小さい	21	抑うつ傾向
3	動悸や脈拍が気になる	4	精神身体的訴え (心気的症状)	25	やる気が出てこない	12	抑うつ傾向
4	身体がだるい	46	精神身体的訴え (自律神経症状)	26	考えがまとまらない	14	抑うつ傾向
5	親の期待が大きすぎる	7	抑うつ傾向	27	何となく不安である	36	対人不安(劣等感)
6	将来のことを心配し過ぎる	9	抑うつ傾向	28	繰り返し確かめないと苦しい	52	脅迫傾向
7	気を失ったりひきつけたりする	49	精神身体的訴え (自律神経症状)	29	人に会いたくない	10	抑うつ傾向
8	緊張すると震えたり冷や汗が出る	47	精神身体的訴え (自律神経症状)	30	死にたくなる	25	抑うつ傾向
9	首や肩がこる	18	精神身体的訴え (心気的症状)	31	他人が信じられない	41	対人不安(劣等感)
10	めまいや立ちくらみがある	48	精神身体的訴え (自律神経症状)	32	悲観的になる	13	抑うつ傾向
11	不眠がちである	16	精神身体的訴え (心気的症状)	33	自分が自分でない感じがする	11	抑うつ傾向
12	排尿や性器の事が気になる	34	精神身体的訴え (自律神経症状)	34	他人に悪くとられやすい	40	対人不安(劣等感)
13	何事にもためらいがちである	39	対人不安 (劣等感)	35	自分を傷つけたことがある		
14	人付き合いが苦手である	43	対人不安 (劣等感)	36	他人に陰口を言われる	56	被害関係念慮
15	周囲の人が気になって困る	57	被害関係念慮	37	何事もいきいきと感じられない	26	抑うつ傾向
16	人に気を使い過ぎる	42	対人不安 (劣等感)	38	他人の視線が気になる	58	被害関係念慮
17	おこりっぽい	24	抑うつ傾向	39	気分が波がある	15	抑うつ傾向
18	イライラしやすい	23	抑うつ傾向	40	気持ちが悪くつけられやすい	60	被害関係念慮
19	不平不満が多い	6	抑うつ傾向	41	人の話が理解できない		自閉的傾向
20	つまらぬ考えにとられる	54	脅迫傾向	42	会話が苦手である		自閉的傾向
21	ものごとに自信がもてない	38	対人不安 (劣等感)	43	作文を書けない		ADHD
22	一人だと落ち着かない	37	対人不安 (劣等感)	44	整理・整頓が苦手である		ADD

さらに、エルネスチェックシートにより抽出された学生の情報は、学生指導に活かすことを目的として、アドバイザー・学生支援課・学生相談室・及び関連する機関が共有していくこととした。

既に本チェックシートを開発し、長年実施してきている大学における2019年度の結果は、大学の平均値11ポイント、短期大学の平均値14ポイント、呼び出し対象学生は、全学生1800名中約7%であったという報告を受けている。

学生相談室へつなげた学生のうち、41～44にチェックがあった学生やその他発達障害が疑われる学生については、大学生活に関する困りごと調査を学生相談室スタッフが面接の中で実施する。大学生活に関する困りごと調査は、信州大学の高橋知音先生が開発された質問紙であり、ADHD困り感質問紙、ASD困り感質問紙、統合版困り感質問紙の3種類が開発されているが、本学においては統合版を用いることとした。困り感質問紙は、発達障害が疑われる学生への支援を充実させている大学において活用が進んでいる。なお、本学で用いることについては、高橋知音氏から直接許可を得ている。

V. 方法

当初は、新学期の学生相談の新型オリエンテーション時に実施する予定であったが、コロナウイルス感染対策で授業が休校になってしまったため、ウエルネスチェックの実施は、

対面授業開始後の6月の第2週目の6月8日から12日までとなった。ウエルネスチェック導入の初年度であったため、1年生だけでなく、4年制大学学生・短期大学学生・専攻科保育専攻の学生全てを対象とした。実施については、学生相談室室長教員がウエルネスチェックの目的や方法を口頭で説明したうえで、各々の学生が、携帯に配信されている各項目に回答をしていった。回答にかかった時間は個人差があったが、おおよそ5～10分であった。

VI. まとめ

昨今では、特別な支援を必要としている学生への支援体制の構築が、多くの大学で模索されている。本学においても、2020年度からの4年制大学新設の時期に合わせ、学生支援の一環としてウエルネスチェックシートの導入を開始した。本稿では、ウエルネスチェックシートの導入過程と本学における学生支援体制構築について報告した。今後は、ウエルネスチェックシートの活用を積み重ね、効果と問題点を探りながら学生支援に活かしていくことと、アドバイザーや他部署との連携を具体化していくことが課題とされた。

さらに本学は、乳幼児の生命を守るという大切は仕事を担う保育者の養成校であり、そのためには学生自身の心身の健康が大前提であり、従来までは特別な配慮を要する学生や障害学生の入学は少なかった。そのため、障害学生も含めて「特別な支援を必要としている学生」という表現を用いてきたが、障害学生支援が義務、または努力義務化されている今、本学においても「障害学生」に特化したし規定や支援体制の整備を構築していくことが必要だと考えている。

【引用・参考文献】

青木智子、佐藤笙子(2014):UPIの結果から見た学生支援の在り方—A大学のケースを考える—、平成国際大学論集, 18,157-172.

池田敦子、田部絢子、石川衣紀、高橋智(2015):大学の発達障害学生支援における学生支援コーディネーターの役割, 日本教育学会第74回大会論文集, 218-219.

平山皓、全国大学メンタルヘルス研究会(2011):大学生のメンタルヘルスマネジメント PUI利用の手引き, 創造出版.

石井恒生(2015):高等教育機関における合理的配慮:発達障害学生支援の観点から, 神戸医療福祉大学紀要, 16(1), 11-17.

- 勝浦真人 (2016a) : 保育における合理的配慮とは. 名護屋短期大学保育子育て研究所, 桜花学園 教育保育研究所年報, 14,15-18.
- 勝浦真仁 (2016b) : 保育者養成校における障害学生支援の現状と課題, 日本LD学会第25回大会発表論文集.
- 木下清、島田修、保野孝弘、綱島啓司 (1997) : 大学生の精神保健調査, 川崎医療福祉学会誌, Vol7, No1, 91-101.
- 森麻友子、西谷崇、井上和郁、山本朗、古井克憲 (2017) : 障害者差別解消法施行における高等教育による障害学生支援体制の整備・推進, 和歌山大学教育学部紀要, 68 (2), 69-77.
- 森麻友子、西谷崇、井上和郁、山本朗 (2018) : 自立及び社会参加を視野に入れた発達障害学生の統合的支援, 和歌山大学クロスカル教育機構研究紀要, 第1巻, 55-63.
- 中井大介、茅野理恵、佐野司 (2007) : PUI から見た大学生のメンタルヘルスの実態, 筑波大学院大学紀要2集, 169-173.
- 日本学生相談学会 (2018) : 学生相談ハンドブック
- 酒井渉・野口裕之 (2015) : 大学生を対象とした精神的健康度調査の共通尺度化による比較検討. 教育心理学研究, 63,111-120.
- 酒井渉、松井祥子、四間丁千枝 (2011) : University Personality Inventory 短縮版作成の試み—一項目反応理論を用いた General Health Questionnaire-30 との比較から—, 学生相談研究, 32,120-130.
- 篠田晴男、島田直子、篠田直子、高橋知音 (2019) : 大学生の発達障害関連支援ニーズを踏まえた障害学生支援体制構築の課題, 高等教育と障害, 1 (1), 61-73.
- 篠田春男、高橋知音 (2011) : ADHD コーチング—大学生を成功に導く援助技法—. 明石書店.
- 篠田晴男、中徑里実、篠田直子、高橋知音 (2017) : 大学生の発達障害関連支援ニーズと就学上の移行スキル支援, 立正大学心理学研究所紀要, 第15号, 7-17.
- 鋤柄のぞみ、加藤優子、櫻村正美、野村俊明 (2016) : UPI から見る本学新入生の特徴, 日本医科大学基礎科学紀要, 45,1-18.
- 高橋知音 (2012) : 発達障害のある大学生のキャンパスライフサポートブック. 学研.
- 高橋知音、岩淵未紗他 (2012) : 発達障害関連困り感質問紙—実施マニュアル第2版—三恵社.

高岸幸弘、櫻井興平、橋根千尋、菅野絵里子、安東大起 (2013) : 入学時の学生精神的健康調査 (UPI) と授業の出席状況との関連, 関西国際大学研究紀要, 4, 177-184.

山崎勇、高橋知音、岩淵未紗、小田佳代子、徳吉清香、金子稔 (2012) : UPI-RS, ADHD/ASD 困り感質問紙の短縮統合版の試作, CAMPUS HEALTH, 49 (3), 67-72.

A Study of the Construction Process of Support System for Students at Students Counseling Room: Introduction of University Personality Inventory (UPI)

Ogiwara, Harumi*

2020年度から4年制大学が開設され、柳城学院は大学と短期大学を併設することとなった。これを機に、特別な支援を必要としている学生への支援体制を構築していくことが課題とされている今、その第一弾として、ウエルネスチェックシートの導入を試みた。本研究においては、ウエルネスチェックシートを導入するにあたっての全国的な動向と、近隣の大学における学生相談室での取り組み調査を踏まえて、短縮版UPIを導入するまでの過程と、学生支援を全教職員で行っていく体制を報告した。

今後は、学生支援課との連携を具体化していくとともに、ウエルネスチェックシートの活用を積み重ね、効果と問題点を探っていくことが課題とされた。

キーワード：学生相談室, UPI, 学生支援, 支援体制